

医療プロフェッショナルリズムⅡ

ナンバリング M2-S1-F04

責任者・コーディネーター	医学教育学分野 高田 亮 教授		
担当講座・学科（分野）	医学教育学分野、人体発生学分野		
担当教員	高田 亮 教授、木村 英二 教授		
対象学年	2	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 4コマ 8.0時間
期間	通期		演習 0コマ 0.0時間 実習 9コマ 18.0時間

・学習方針（講義概要等）

医師という仕事は、単に専門的な知識や技術を身につけるだけでなく、患者さん一人ひとりと真摯に向き合い、チーム医療の中で他の医療職種と協力し、社会の一員として貢献することが求められる。医療プロフェッショナルとしての行動や態度を養うため、本科目では、「医療プロフェッショナルリズム」を多角的に学ぶ。具体的には、省察をおこない生涯にわたって学び続けることのできる医師像を目指すため、成人学習理論についての講義を行う。また他の医療職種との連携の重要性を理解し、チーム医療の中で円滑なコミュニケーションと協働を図るため、多職種を理解する講義と実習を行う。さらに、指導医や医療スタッフの行動を観察することで自らの行動を省察するために、当直体験実習を行う。

・教育成果（アウトカム）

成人学習理論を理解することで、成人学習者としての自覚を持ち、自主的で協同的な学習ができる。多職種の職務内容を理解することで、医学部生としての自覚と他の医療職種との連携の必要性を理解し、チーム医療における自身の役割を明確にすることができる。献体登録者による講話会においては、臨床解剖学実習を、登録者と社会から託された「医師になるための信託」であると認識し、実習に誠実に取り組むことができる。当直体験実習においては、指導医や医療スタッフの行動を観察することで、医療者としてのプロフェッショナルな行動・態度に照らし合わせて、自らの行動を省察するとともに、社会生活における初期治療・救急医療の重要性を説明できる。

(ディプロマ・ポリシー： 1,2,4,5,6,7,8)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	医師に必要なプロフェッショナルな行動・態度を説明できる。
2	成人学習理論を説明できる。
3	成人学習者としての自覚を持ち、能動的で継続的な学習意欲を養うことができる。
4	地域医療におけるチーム医療やプロフェッショナルリズムのあり方を説明できる。
5	地域特性が健康と疾病の分布に及ぼす影響を説明できる。
6	チーム医療における自・他職種の役割を説明できる。
7	他の医療職種の職務内容を説明することができる。
8	主要な医療専門職の業務が法律によって規定されていることを説明できる。
9	厚生済民の理念と、多職種連携が社会保障制度を支える仕組みであることとの関連性を説明できる。
10	病院で勤務する医療スタッフと良好なコミュニケーションをとることができる。
11	臨床解剖学実習を、登録者と社会から託された「医師になるための信託」であると認識し、実習に誠実に取り組むことができる。

12	初期治療・救急医療について現場を見聞し、その重要性を説明できる。
13	医師となるために今の自分に何が必要かを省察できる。

・ 講義場所

教員が指定する場所

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	6/22(月)	4	医学教育学分野	高田 亮 教授	成人学習とは何か	1,2,3	【事前学修】 成人学習理論について、資料を見てまとめる（所要時間 60分） 【事後学修】 講義で学んだことを基に自己学習計画を作成する（所要時間 60分） 【ICT】WebClassに事前資料をアップする。 講義中にクリッカーを使用し理解度を測定する。
講義	6/24(水)	4	町立西和賀 さわうち病院顧問	北村 道彦 医師支援調整監	地域医療講義	4,5,13	【事前学修】 医師の職務内容について、事前にインターネットや文献を用いて基礎学修を行う。（所要時間 60分） 【事後学修】 講義の内容をまとめると共に、自分が担当する職種の仕事内容と多職種連携における役割をまとめる。（所要時間 60分） 【ICT】WebClassに事前資料をアップする。
講義	6/26(金)	1	医学教育学分野	高田 亮 教授	多職種連携における各職種の役割	6,7,8,9	【事前学修】 医療施設で働く職種とその仕事内容について、事前にインターネットや文献を用いて調べる。（所要時間 60分） 【事後学修】 講義の内容をまとめる（所要時間 60分） 【ICT】WebClassに事前資料をアップする。 講義中にクリッカーを使用し理解度を測定する。
実習	7/6(月)	1 5 4	医学教育学分野	高田 亮 教授	多職種見学実習	1,6,7,8,9,10	【事前学修】 見学する医療職種の仕事内容とチーム医療での役割を調べて、疑問点などをまとめる。（所要時間 60分） 【事後学修】 提出物をまとめ、提出する。（所要時間90分） 【ICT】WebClassに提出物の書式をアップする

講義	10/1(木)	2	人体発生学分野	木村 英二 教授	献体登録者による講話会	1,11,13	【事前学修】 献体について、資料を見てまとめる。(所要時間60分) 【事後学修】 講義で学んだことを基にレポートを作成する(所要時間60分) 【ICT】WebClassに提出物の書式をアップする
実習	別途指定		附属病院	担当指導医(当直医)	当直体験	1,10,12,13	【事前学修】 注意事項の確認を行う。(所要時間30分) 【事後学修】 レポートの作成(2種)を行う。(所要時間90分) 【ICT】WebClassに提出物の書式をアップする

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	診療参加型臨床実習に必要なとされる技能と態度についての学修・評価項目(1.1版)	医療系大学間共用試験実施評価機構	左記ホームページ内医学系OSCE公開資料より入手	
参考書	診察ができるVol.1 身体診察		MEDIC MEDIA	2023
参考書	医学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改訂版	モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会	文部科学省ホームページより入手	2022
参考書	実践 多職種連携教育	駒澤伸泰	中外医学社	2020

・成績評価方法

<p>【総括評価】</p> <p>講義・実習後のレポートで総括評価を行う。前期・後期進級試験では評価を行わない。 講義・実習を欠席した場合は、正当な理由を記載した欠席届が提出されているときのみ代替の評価を行う。</p> <p>100点満点のうち60点以上を合格とする。各講義・実習の評価方法と配点は以下の通りである。</p> <p>◎成人学習講義(10点) ・講義で学んだことのまとめと自己学習計画レポートで評価を行う。</p> <p>◎地域医療講義(10点) ・講義の内容(簡潔に)と講義を受けての自身の考え(感想文ではない)を、800-1200字でまとめたレポートで評価をおこなう。</p> <p>◎多職種連携講義(10点) ・講義で指示するレポートの内容で評価を行う。</p> <p>◎多職種連携実習(30点) ・実習中の態度を評価する。(10点) ・実習で学んだことのまとめたレポートで評価を行う。(10点) ・グループワークのプロダクトの内容で評価を行う。(10点)</p> <p>◎献体登録者による講話会(10点) ・講話の内容(簡潔に)と講話を受けての自身の考え(感想文ではない)・臨床解剖学実習に対する決意を、800-1200字でまとめたレポートで評価をおこなう。</p> <p>◎当直体験実習(30点) ・当直体験用レポートを評価する(10点) ・当直体験を通して医療者としてのプロフェッショナルな行動・態度について考察し、今の自分が改善していくべき行動・態度について省察したレポートを評価する(800~1200字)(20点)</p> <p>※ レポートは実習終了後2週間以内に提出すること。遅れた場合には採点后0.6をかけた点数を評価とする。ただし、1か月以上遅れた場合には評価をしない(0点)</p>

【形成的評価】

十分な考察あるいは省察がなされておらず、到達目標に達していないと判断したレポートに対してはフィードバックし、再提出もしくは別課題のレポートの提出を求める。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1,2,3	2		10					10
4,5	2,6,8		10					10
6,7,8,9,10	1,2,6,7		40					40
11	2		10					10
12	1,2,5		30					30
合計			100					100

・特記事項・その他

7月7日の実習は、学生を2グループにわけて半日ずつ見学実習を行う。各グループ5-10名のチームを形成し、附属病院の各職種に配属される。また病院見学実習以外の時間は、担当職種の職務内容とチーム医療の役割をチームでまとめ、発表会を行いグループ内で共有する。

・Aグループ 午前：附属病院での多職種見学 午後：多職種の役割の理解と共有

・Bグループ 午前：多職種の役割の理解と共有 午後：附属病院での多職種見学

病院実習中は、スマートフォン・タブレットPCなどの電子デバイスの持ち込みおよび使用を一切禁止する。電子デバイスの使用は、院内感染のリスクを高めるだけでなく、撮影・録音等の有無にかかわらず患者情報の漏えいにつながる重大な問題を引き起こす可能性がある。これらの理由から、病院実習の円滑かつ安全な実施のため、本規則を必ず遵守すること。

本科目では、事前事後学修以外に390分の自己学修を要す。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

講義室、実習室、インターネット環境、シミュレーター、附属病院

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済みの機器・器具はありません			